

2. 指標設定

成果指標	指標名	市民の安全安心の確保		目標年度	指標の設定理由			
	数値	-			市民の安全安心の確保が必要であるため			
活動指標	指標	a	総出動件数	b	教育研修参加数	c	救急講習受講人数	d
	数値	目標	-	目標	-	目標	-	目標

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H21	H22	H23
市民の安全安心の確保		-	-	-

活動指標名	単位	H21	H22	H23
a 総出動件数	件	2,083 件	2,337 件	2,428 件
b 教育研修参加数	人	30 人	34 人	39 人
c 救急講習受講人数	人	1,052 人	1,759 人	1,493 人
d	人	-	-	-

4. 課題と対応

課題
複雑多様化する災害に対応するため専門的かつ高度な知識・技能を修得した職員の養成を図る必要があるが、実働する救命士が減少しているため、救急救命士の養成が急務である。
対応（改善点等）
救急救命士の養成に関しては研修期間が長期に及ぶため勤務人員の調整運用を図りながら救命士の養成に努める。

5. 事業費・・・H21～H23（決算額）、H24（予算現額）

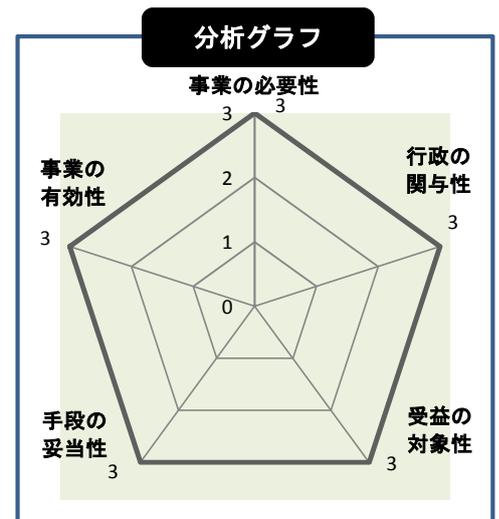
決算額（千円）		H21	H22	H23	H24
		123,674	82,328	44,119	447,303
うち経常経費		52,851	46,073	41,496	47,858
財源内訳	国費			1,268	73,367
	県費			222	144
	市債	69,100	28,800		312,600
	その他			770	339
	一般財源	54,574	53,528	41,859	60,853
うち経常		52,851	46,073	39,236	47,375
事業費に係る人件費		286,286	293,003	283,370	287,254

6. H25年度予算の方向性

方向性
減額
理由
消防救急デジタル無線整備事業が終了するため

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 市民の安全安心を確保維持するため必要不可欠である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 市民の安全安心を確保維持することは市の責務である。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 全ての市民を対象とした事業である。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 市民の安全安心を構築するため必要な事業である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 本事業は必要不可欠な事業と判断できる。



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	経費の削減を図りつつ、目的の達成に努めること